握しやうと努力することにつとめ，同時に又，一般社會に對しても從來の頑固な保守主義を變更することとした．自分が此の最初の新態度を採つたのは昭和4年であつた．〔山本別刷第24號"太陽黑點の地球に與ふる影響についての新聲明"を見られよ〕

このことあつて以來，吾人は黑點問題については，(もはや，材料と證據とは澤山あるのであるから）よほど進取的であり，むしろ，問題が人類社會の實際生活に關係が深いものだから，或る場合には，率先して世人の注意を太陽黑點に向けやうと努力してゐる．勿論，天文家の中にも，氣象學者の中にも，今尙ほ昔しの如き保守的な態度を採りつづけてゐる人が少なくない．しかし，此等は，言はゞ太陽のことを知らない天文家であり，氣象學者である．

今や，世と共に，學界も非常に進歩しつゝある．學者はものにこだわつてはならない．研究對象に關する進歩的態度も，又，保守的態度も，必ず其れには深い意味が無くてはならない．盲目は學究者の最も嫌ふべき態度である．守るべき時に守り，進むべき時に奮つて進む態度こそ，學者には必要であるが，勿論，之れは聰明と勇氣とを有たなくてはならない．

瀨戸へ歸つた本田實君が，最近，非常に綿密な方法で太陽黑點の研究を始めた．同君は，一昨年應召者となる前，既に極めて注意深く太陽現象に立ち向つたが，其の後，二ケ年の長い間，よく想を練り，方法を考へたものらしい．いよ々々今回，元の任地に歸つて，適當な望遠鏡が手に入るや否や，すぐ，徹底的な太陽研究に奮進することになつた．只，望ましいことは，同君の健康が良く，又，瀨戸の天氣が惠まれて，此の種の研究が出來るだけ長く續けられることである．(19 0—3—3)

ペルーに，また，日食!!

去る1937年6月に南米ペルーに皆既日食があつて，京都から山本柴田堀井3氏が遙る々々出張したことは未だ吾人の記憶に新たであるが，來る1941年にも，其の三月27日に，又，太平洋からペルーへかけて見える日食がある．この日食は，金環食であつて，皆既食でないため，コロナは見えないが，しかし時刻の觀測には重要なものである．近時，コロナは佛人リヨー氏等の研究によつて日食以外の時にも或る程度の觀測が出來るやうになつたが，其の代り，月の運行の研究のため，日食の時刻の精密觀測は，掩蔽よりも遙かに重要なものと考へられるに至つた．此の問題の爲には，皆既食と金環食とは同じ重要さを有つ．來年のはリマ，ワンカヨ，ビスコ，クスコ等の市内で立派に觀測し得られるものである．詳細は後報する．(急報414參照)